

## 高病原性鳥インフルエンザ発生時の防疫作業に 利用する「鶏用防疫バッグ」の検討

中丹家畜保健衛生所

○黒田 鼓 種子田 功

【はじめに】昨年度、口蹄疫等発生時の大型殺処分家畜輸送のために産学公で開発した防疫バッグの鶏への応用について有用性を確認。今回、様々な焼却施設に対応可能な「鶏用防疫バッグ」について検討。【方法】事前調査で防疫作業での操作性及びコスト等を勘案し、アルミ内袋を処分鶏7羽に合わせたサイズ及び保護カバーの素材を不織布と決定。農場防疫演習で採卵鶏147羽を供試して作業性及び機能性等について検証。【結果】不織布の保護カバーと小型アルミ内袋で一貫した作業が可能で、詰め替え時の羽毛の飛散がなく、鶏体の鶏舎外への搬出から密閉作業時間は、防疫バッグ1個あたり114.3秒、密閉容器で85秒で1.5倍の時間を要した。96時間保管後、ガス発生による膨張を認めたが、装着したガス抜弁が有効に機能。また、熱シール密閉部分の確認が難しく、数袋で熱シールが不完全な物があったことから、簡易性と正確性の向上が作業上の課題。【考察】熱により変色する示温材を利用し、シール方法を波型から直線にすることを検討。また、ガス抜弁素材の検討等、低コスト化が必要。【まとめ】鶏用防疫バッグは、作業の安全性及び輸送効率に優れ、防疫作業において有用であった。今後コスト面等の課題を解決することで更に実用的な防疫資材となるものと考えられる。